［特別企画３］

血液事業本部に設置した部会・委員会

髙橋孝喜
日本赤十字社血液事業本部

【はじめに】

本シンポジウムでは平成30年４月に血液事業本部に設置した４つの部会，医療機関対応部会，技術安全対応部会，献血者対応部会およびマネジメント部会の部会長から，その現状，課題などを報告していただきます。

日本赤十字社血液事業本部（以下「本部」という）の経営会議の下に，各種の「委員会」および「プロジェクト」が設置されています。「委員会」は，血液事業の重要事項や事業運営について，経営会議に諮る前に，幅広い構成員により検討する機関として設置され，「プロジュクト」は検討課題を個別テーマに特化したものです。各委員会およびプロジェクトにおいて議論が尽くされ，成果をあげつつありますが，全体を見渡すと委員会の数も多く，何が要点であるか，喫緊の課題は何か，中長期的な目標，構想は何かが少しわかり難いきらいがありました。その意味から，血液事業の業務を大別して考え，４つの部会において総括的に課題を整理し，その下の委員会で細部を詰めていただきたいと考えたわけです。今般示された日本赤十字社の長期ビジョンにある，献血者・医療機関（患者）の視点に立った血液事業の推進を図ることが重要であり，４つの部会に牽引していただくことを期待しております。

【平成30年度の体制】

平成30年度から，血液事業を医療機関対応，技術安全対応，献血者対応および業務実施体制の４つの重点領域に分け（**図１**），各重点領域を統括

医療機関対応	・IT技術等の活用により，有限な血液を生かしきる供給体制を確立する。 ・新規製剤等の医療機関のニーズの把握
技術安全対応	・血液製剤の安全性および品質を向上させる。 ・新たな自動化技術の導入により業務効率の改善を図る。 ・医療機関のニーズに基づく新規製剤等の検討および開発
献血者対応	・長期的・安定的に献血者を確保する。 ・必要な血液量を効率的に確保する。
業務実施体制	・業務量の繁閑を平準化する。 ・職位に見合う業務を確立するとともに，業務量に見合った配置人数に最適化する。 ・IT技術を活用し，業務の省人化および集約化を進める。

図１　血液事業の重点領域と目標

する会議体として４つの「部会」を新たに設置し，その下に関連する「委員会」を配置しました（**図２**）。

「部会」は，各重点領域の基本方針を決定し，傘下の「委員会」に基本方針を具現化するため戦略等の検討を指示し，「委員会」はその指示に基づき，検討を進め，結果を経営会議に報告します。

また，プロジェクトをやめ，本部の経営企画部と技術部を跨ぐ特定の課題を遂行するため「タスクフォース」を新設しました。

平成29年度には11の委員会と14のプロジェクトがありましたが，委員会はすべて継続することとし，プロジェクトのうち10はタスクフォースに移行し，４つは役割完了または他のプロジェクトと併合しました。

【令和元年度の体制】

さらに，令和元年度からは，品質保証委員会が担っていた地域センターへの品質リスクマネジメントの定着化を本部品質保証課が対応するため同委員会は廃止し，献血者確保戦略委員会は献血推進戦略委員会に，システム委員会はIT・システム戦略委員会にそれぞれ名称を変更したほか，タスクフォースは３つを廃止し，３つを新設しました（**図３**）。

今後も，必要に応じて部会･委員会等を見直し，その適切な運営により，全社的な長期ビジョンはもとより，本部における基本理念およびグランドデザインの実現に向けて邁進したいと考えており，血液事業に関わる全職員の方々に，その真意が理解されることを願っております。

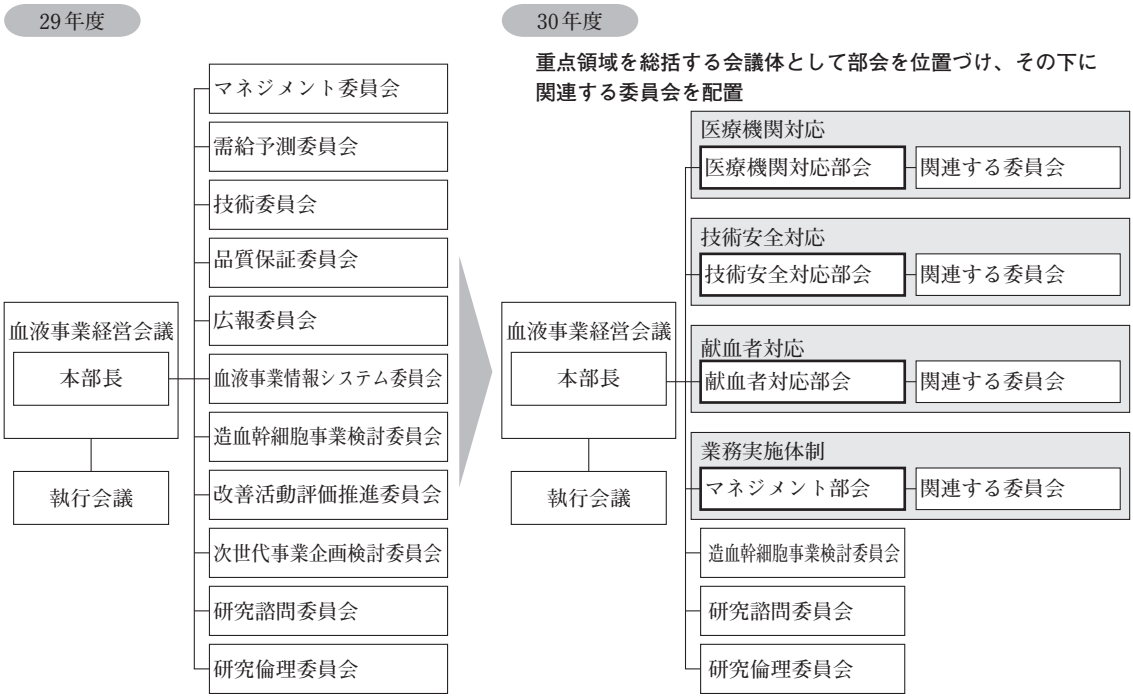

図２　重点領域を軸に整理した委員会等の構成

・献血者確保戦略委員会⇒献血推進戦略委員会，システム委員会⇒IT・システム戦略委員会
・品質保証委員会を廃止。タスクフォースは３つを廃止し，３つを新設。

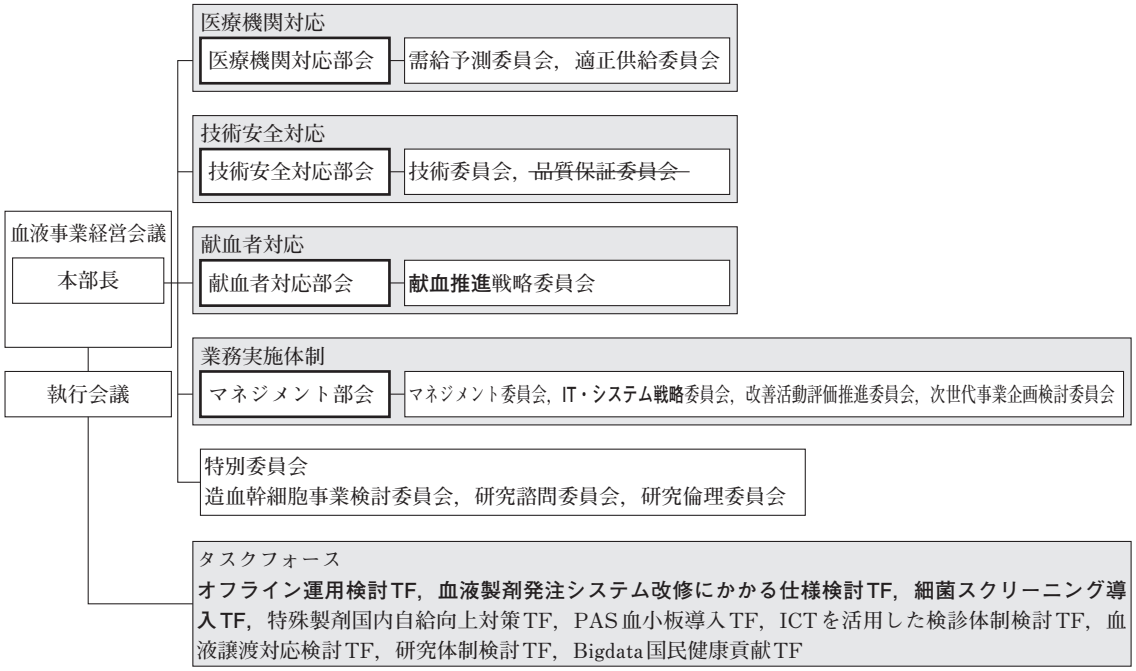

図３　令和元年度における部会・委員会等の構成